



新型コロナ「今しばらく緊張感ある生活を！」

——— 世界の恒久平和！「平穏で笑顔ある社会」に向けて ———

・・・ ご挨拶 ・・・

こんにちは！春の暖かさが感じられる季節を迎え、皆さま方におかれましても益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。皆さまのお力で市議会へ送って頂き、現在4期目の最終1年を迎えました。改めましてご指導・ご尽力に感謝申し上げます。

新型コロナとの闘い

さて、国内では、新型コロナウイルス感染症との闘いも2年を超え、市民生活や事業への悪影響も継続しています。3月12日には、熊本県の「まん延防止等重点措置」も解除されましたが、感染力が強いオミクロン株の収束を見るに至っていません。



熊本市では、1月・2月の急激な感染拡大する中、「医療業務と保健所業務のひっ迫」に対し、感染者の命を守ることに重きを置いた、感染者の疫学調査期間の短縮や濃厚接触者の健康観察をセルフチェックとする等、新型コロナに対する不安が市民に広がったと考えています。

今後、3回目のワクチン接種、5歳から11歳のワクチン接種が進められ、1日も早い収束を願うものですが、学校や高齢者施設・医療機関でのクラスターも多く発生しています。お互いに基本的な感染防止を徹底し、今しばらく緊張感ある生活を送っていきたいと考えます。



ロシア軍の軍事侵攻

国外では、ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻が連日報道されています。このような軍事攻撃に対し、熊本市議会でも「抗議する決議」を行いました。ロシア軍の即時撤退を強く求めるものです。ウクライナでは、多くの一般市民・子どもの被害が出るとともに、多くの難民者が「命の危険との闘い」を強いられています。立憲民主党熊本でも、「ウクライナ難民支援の緊急募金活動」を行っています。

新型コロナ、軍事侵攻、東北での大規模地震など、安心・安全・平和といったものが脅かされる報道が続いていますが、全世界が・日本が・熊本が「平穏で笑顔ある」社会となるよう、これからも市政に全力投球します。これまでと変わらぬご指導・ご支援をお願い申し上げます。



会派「代表質問」！



2月25日、私が所属します市民連合を代表し、会派代表質問を行いました。代表質問とは、会派全体の政策的な意見・要望等を行うため、毎年第1回定例会のみで行われているもので、『①新型コロナ感染症対策、②学校教育の充実と支援体制、③資源循環・環境保全型廃棄物行政の確立、④市民生活を豊かにする道路整備の推進、⑤防災対策と地域防災力の強化』の5項目を市長等に質問しました。

特に、本年1月からの「コロナ6波」は、これまでとは違った特異性があり、無症状感染や子どもたちへの感染拡大するなど、ひっ迫する保健所業務・病院業務の在り方、公共施設をはじめとしたエッセンシャルワーカーの取り組み、学校・高齢者施設等におけるクラスター対策チームの取り組みなどについて、本市の今後の取り組みについて質すとともに、充実・強化を求めました。

令和4年度 第1回定例会 (3月議会) 報告

令和4年度の事業・予算を審議する「第1回定例会(3月議会)」が、2月16日から3月24日までの37日間の日程で行われました。

令和4年度の当初予算は「総額6,917億4,759万円」。一般会計の約3,800億円については、新型コロナウイルス感染症対策を最優先に、熊本地震からの復旧・復興、更には大西市長が進める「まちづくりの重点的取り組み」として、①安心して暮らせるまちづくり、②ずっと住みたいまちづくり、③訪れてみたいまちづくり、④デジタル化の推進などが柱となっています。

新型コロナウイルス感染症対策(76事業149億円)

- ・円滑なワクチン接種(約40億円)
- ・検査及び陽性者等のフォローアップ体制の充実(約18億円)
- ・コロナ禍を踏まえた生活支援(約13億円)
- ・中業企業等への支援(約12.5億円)
- ・感染収束後を見据えた需要喚起(約9億円)

熊本地震からの復旧・復興(約54億円)

- ・宅地復旧関連(近見地区/約8億円)
- ・防災、減災のまちづくり
- ・熊本城復旧事業(約16億円)



まちづくりの重点的取り組み(主な事業)

- ・35人学級の拡充(令和7年度までに中学校3年生までを目指す)
- ・産後初期の健康診査への助成の創設
- ・障がい児保育のための保育士配置への助成拡充
- ・政令指定都市移行10周年記念事業
- ・健康ポイント事業の魅力向上
- ・まちなかでの新たな移動手段(グリーンスローモビリティ)の導入
- ・まちなかループバスの運行
- ・TSMC進出を見据えた戦略的対策
- ・くまもと脱炭素循環共生圏の推進(温暖化対策)
- ・くまもと花博を契機とした「森の都くまもと」の推進
- ・デジタル市役所の推進
 - 自治会等の補助金申請のオンライン化
 - おくやみサポート窓口の設置(死亡時の手続きの負担軽減)

(※まちづくりの重点的取り組みは、極一部を抜粋し掲載)

市議会議員「各区議員定数の変更」

現在48名の市議会議員は、政令市移行時(平成24年)の各区の人口比により選出されています。政令市移行10年が経過し、直近の国勢調査で「議員一人当たりの市民数」で計算すると以下の様になることから、議会閉会日である3月24日議員提案により、各区議員定数を変更することが可決されました。

来年の令和5年4月施行の市議会議員選挙では、私の選出区である中央区は、1増の12名が定数となることとなりました。

区名	現行(平成24年)		改訂後(令和2年)		議員一人当たりの人口数	増減
	人口	定数	人口	定数		
中央区	175,023	11	187,502	12	187,502	1増
東区	190,981	13	189,524	12	189,524	1減
西区	94,261	6	91,177	6	91,177	
南区	125,574	8	130,829	9	130,829	1増
北区	148,635	10	139,833	9	139,833	1減
合計	734,474	48	738,865	48	738,865	

以上、最終的には閉会日に「予算36件/条例23件/その他38件/人事2件」の99議、更には「ロシア連邦のウクライナ侵攻に抗議する決議」、意見書6件、議員定数条例の全てを可決・承認・同意し、3月24日に閉会しました。

TOPICS 01 各種「補助金申請のオンライン化」はじまる!

熊本市では、デジタル市役所の実現に向け、各種取り組みを行っています。本年4月からは、地域諸団体と関係深い「まちづくり関連の申請」のオンライン化が進められます。対象手続きは右記の11種。地域担当職員等からの丁寧なサポートを強く要望しています。

■まちづくり関連補助金申請オンライン化対象

補助金名	補助対象団体
1 町内自治振興補助金	町内自治会
2 防災灯補助金	
3 ごみステーション管理支援補助金	
4 地域公民館運営費補助金	地域公民館
5 地域公民館借家料補助金	
6 校区自治協議会運営補助金	校区自治協議会
7 校区青少年健全育協議会運営費補助金	
8 校区防犯協会補助金	校区防犯協会
9 老人クラブ活動補助金・健康増進助成金	
10 老人クラブシルバーヘルパー活動助成金	老人クラブ
11 公園愛護会助成金	

TOPICS 02 公共施設等総合管理計画の取り組み

全国の各自治体が抱える課題として、「公共施設の老朽化」対応があります。昭和30~40年代に一斉に整備された市営住宅・学校施設・本庁舎・図書館といった公共施設の更新時期を迎え、その更新・整備には想像以上の多額の予算が必要となり、対応が困難となるとされています。

そこで、熊本市では、今後40年かけて「私有施設の総床面積を20%削減」し、将来の負担コストの軽減する中で、施設の長寿命化・更新に取り組むとしています。

令和4年度からは、5年間の実施計画で、金峰山少年自然の家や高平団地建替・競輪場整備・天明校区義務教育施設整備(小中一貫教育)が進められていきます。